

コアラの切手、発売中

郵便局近畿支社は7月20日、イングランドの丘のコアラをイメージして作られたフレーム切手を2種類発表し、販売を開始しました。同切手は、3月に西オーストラリア州から4頭のコアラが贈られてきたことを記念し、また地域貢献の一環として同局が製作しました。



▲オリジナルフレーム切手はシールとしても利用できます

この日は、市役所中央庁舎で贈呈式典が行われ、同局近畿支社の西田一真営業本部長が訪れ、「多くの人たちに愛されるコアラをイメージして切手を作りました。観光PRに少しでも役立てていただければ」と中田市長に切手を贈りました。中田市長は、「子ども



▲オリジナルフレーム切手を手にする西田部長(右)と中田市長(左)

たちにも親しみやすいかわいらしい切手。観光のPRにしたい」と話しました。コアラやヒツジ、夢ハッチ号などの写真を使用した80円切手10枚綴りが1200円。また市出身で世界的に活躍しているグラフィックデザイナー市橋友子さんがコアラの様子をカラフルに描き製作したものは、50円切手が10枚綴りで900円となっています。両方ともA4サイズのシートとなっており、各1000部ずつ印刷されています。同切手は、島内の全49の郵便局で10月19日まで販売されています。

姉妹都市セライナから学生使節団来訪

友情を築き深める！

市と姉妹都市のアメリカ・オハイオ州のセライナ市は、互いに学生らの使節団を派遣し合っています。今年、セライナ市から学生ら5名の使節団が、南あわじ市を訪れて日本での暮らしを体験しました。

8月12日から18日まで、市内の一般家庭にホームステイしながら日本での生活や文化に触れ、市内の名所や観光施設などを見学し、さまざまな体験を楽しんだほか、地元学生らとの交流を深め友情を築きました。



▲淡路三原高校で、淡路人形浄瑠璃の人形を動かすセライナ市からの使節団



▲児童館で書道や茶道の日本文化を体験

福良の児童館では、茶道教室に通う小学6年生のお点前で茶道を楽しんだあと、書道にも挑戦。「愛」や「夢」、「友」などの字を半紙や団扇に、毛筆を使ってみごとに書き上げました。



▲淡路島牧場で子牛にミルクを飲ませる体験や、乳搾り体験もした学生たち



▲歓迎セレモニーでの記念撮影

の人形の動かし方を教わったり、学校生活の違いなどについて英語での会話を楽しみながら、意見交換しました。また、にほんごふれあい教室による日本語体験など、言葉の違いを越えて心を通わせることができました。今回の来訪により、これまでに両市が育んできたきずなをさらに深め、今まで以上に強い結びつきを得ることができました。

日韓中学生がサッカー交流

第3回となる淡路島と韓国・南海郡の中学生たちによる親善サッカー大会が、8月13日と14日、洲本市の運動公園・アスパ五色で行われました。複数の島がある南海郡と「島同士の交流を図ろう」と平成21年度から相互派遣で親善交流しています。

今年、南海郡海城（ヘソン）中学校のサッカー部14人が来日して淡路選抜の中学生と親善試合が行われました。初日は2試合が行われ、第1試合は1対1の引き分け、2試合目は0対2で海城中学校が勝ちました。翌日は、淡路選抜と海城中学校の混合チームが編成されて、同じチームメイトとなって練習試



▲炎天下、はつらつとプレーする選手たち



▲淡路選抜チーム(25人)と海城中学校サッカー部(14人)の選手たち

合も行われました。炎天下、スタンドから大きな声援を受けながら選手たちは、はつらつと一生懸命プレーしていました。

また、歓迎会ではお互いに相手国の言葉で自己紹介したり、合宿で寝食を共にしたりと、スポーツだけでなく文化交流や伝統を理解し尊重し合う貴重な交流となりました。

ふれあい市長室 大学学部誘致で若者のあふれるまちに

南あわじ市長 中田勝久

県の高校再編により、平成21年3月に県立志知高等学校が閉校されてから2年半が過ぎました。先日、毎年心配されている淡路三原高校のクラス数を維持するため、大西県教育長へ地元自治会やPTA、婦人会や老人会、永田県議とともに陳情に訪問しました。何とか多くの地元元学生が地元の高校に通えるよう今後も引き続き努力してまいりたいと考えています。

一方、志知高校跡地については、閉校時より県当局・県教育委員会へ強く要請してまいりましたが、なかなか活用方法が定まらず、地元や関係者から厳しいご意見を多数いただいております。また、地元自治会や農業委員会、農協や酪農協、水交會や志知

高校同窓会から、「地域が閑散とし活力がなくなつた。地域の特性を生かした農漁業関係の教育機関や研究・人材育成施設を誘致し、地域活性化の起爆剤として、いただきたい」との強い要望を本年いただきました。併せて、活性化委員会からも「放置された志知高校に、地域と連携できる大学などの教育機関を早急に誘致してほしい」との要請もいただきました。

志知高校閉校前から県と協議し、市単独でも大学や企業への訪問を重ねてまいりましたが、昨今の経済情勢や少子化の時代に興味を持っていただける所はありませんでした。しかし、各方面からの熱い思いや強いご要望もあることから、粘

り強く努力を重ねていた折、ご助言いただける方を通じて大学学部誘致に向けて具体化できるのではないかと感触を得ることができました。当初は志知高校時代と同規模程度で、市内への波及効果を視野に入れながら全国有数の農漁業大産地の特徴を生かし、環境・福祉などを組み入れ地域の再生を考慮した大学学部の設置をめざしてまいりたいと考えております。

- ①個人・団体 324件
- 184万79661円

- ②義援金箱に寄せられたもの
- 487万1704円

社会福祉協議会

44・3007

被災地への義援金



▲市内16か所に設置された義援金箱

市と社会福祉協議会では、東日本大震災で被災者の復興支援のため、義援金を受け付けています。

義援金総額※8月15日現在
2335万1365円